

日本銀行

ノ食堂即チ帝^スホテ^ルノ食堂^ニテ^ハ廣^クモ^ノニ^ツアリ^テ食^ハ事^ヲナ^スナ^リ然^レモ^ハ時^ハ向^マチ^マチ^ニ為^レル^ル關^ニ於^テハ^ハ雜^ニセ^ルモ^ハ夕^ニ食^ハノ^トキ^ハ此^ノ食^ハ堂^ニハ^ハ外^ニ部^ノ人^モ入^ル込^メ故^ニ七^ノ時^ハヨ^リ八^ノ時^ニマ^デハ^ハ我^レ等^ハ、雜^ニ司^スス^ル中^ニハ^ハ老^ニ人^ハ小^ニ供^ハハ^ハ一^ノ家^ノ族^ヲカ^テテ^ルフ^ルヲ^ハ團^ニテ^ハ食^ハ事^ヲナ^スス^ル到^リ膳^ニ終^ル日^ハ人^ノ与^リテ^ハ愉^シ快^ニト^モ思^ハレ^ル故^ニナ^リ食^ハ事^後ハ^ハホ^テル^ノ事^故共^ニ同^ニノ^休ミ^ハ切^クア^リテ^ハテ^ハブラ^ソフ^ラリ^ニテ^ハ夜^ヲ深^キレ^ル或^ハハ^ハ時^ハ外^ニ部^ノ人^ハ又^リ召^シ込^メ人^々ハ^ハ舞^ヲ踏^ク有^ル又^リ月^ハニ^ハ活^シ位^ニ音^ハ樂^ハ會^ハモ^ハ有^ル

右^ノ如^キ宿^ニ泊^リテ^ハ自^ラノ^日常^ノ舉^動ヲ^ハ述^ベレ^ル朝^ハ大^ニ概^ニ七^ノ時^ハ半^ニ床^ヲ立^テ先^ニツ^テ顔^ヲス^リ洋^装ヲ^ハ拂^ヒ

明治 年 月 日

日本銀行

ヲ
ー
ト
ミ
ー
ル

十五錢

ハ
ム
、
エ
ワ
グ

四十 钻

芥

十五錢

金七十銖日本一兩四十錢

之レカ 通 ヲト 一々、テノブルニテ 勘定ヲナシ 利ノイニ十两(日本ノ二十兩)
 ナリ 購フルナリ 合計日本金ニテ 四十六两ノ 朝食ナリ 限ハ 高ナ

明治 年 月 日

日本銀行

明治 年 月 日

世へ一膳の人の膳は二三人の膳に
 比して一膳の人の膳は二三人の膳に
 比して一膳の人の膳は二三人の膳に

日本銀行

リテニヤツラ脱キ手顔ヲ洗ヒ洋浴日ノ塵ヲ拂ツテ
 七時頃ハ食望ニ行キ只一人ニ食事ヲナシ食室ニ
 眠カナレトモ話お手モナシ只独リニ食事ヲナスヲ欲シ
 寂シナ限リナリ食事ハ

スープ

二十セ

肉 鳥、又
 獣肉

六七セ

シヤカ芋ヌリ冬種ノ野菜

十セ

ビール、ユワプ一杯

十セ

一帯ニ五ナガ

外、おーい、心付ニナセ

夕食ハ一帯ユナセ、印口布ノ三円ハ横ルナリ

明治 年 月 日

日本銀行

新リミヤ田一フヤ保返スモ
新規ノフアリノ研究、衆
為ソ柳が厭、チーハ、只ハ稍トモルハ
家卿ノフヤ
思出スナリ

思ふふたり

明治 年 月 日

日本銀行

三月十二日

朝来ノ雨天ナリシモ午後ニハ晴巨クニ為ナニ四時半ヲ
コロンビヤ大学ノ口ヒエソニ教授ヲ訪問シテ半時斗リ
主人夫婦及ヒ妻ノ客ト談話ヲナシ帰リテ夕刻ニハ
一時斗リ散歩ヲナシテ帰リ十時近テ讀書ニテ湯
ニ入リテ床ニ就ク

4月17日 大塚 - 口口口口 大塚のこゝに
 大塚 - 大塚のこゝに 大塚のこゝに

三月十五日

日本銀行

小野君 幸哉 己ニナリ向母ノ忌中ノ積リ辛
 乙タリ尚皆知リ侍候リ々々後ニ因テ又故ニ忌中ト
 ナル者ナリ午後ハ一宮邸支那人ト共ニ常市ノ有
 名ナル人ノ畫及器々重器ノ入札ヲ見知リ行ク一牧
 何美弗ト云フ繪ノ支那ノ玉美モ深山ニ集ムリ居リ
 テ中々見事ノモノナリ夕刻ヨリ一屯ノ桑田ニテ常地
 ノオペラヲ見知リ行ク紐育ニツアリテ其ノ一ニシテマニハ
 タリト云フ方ナリ紐育ノ貴女連ノ傍所所ニ着飾リタ
 ル者ヲ見物ニ行リ振ノモノニシテ其辰ノ少シ
 ナリ高当ハ云々要スルニ昔連ノ其辰ヨリモ音ハ本ト歌ヲ

明治 年 月 日

7000 元 花 札 2 万 5 千 元 2 万 5 千 元 1 万 5 千 元 1 万 5 千 元
 2 万 5 千 元 2 万 5 千 元 2 万 5 千 元 2 万 5 千 元 2 万 5 千 元

三月十四日

日本銀行

主トシテタルモノニテ日本ノ歌テモ長
 歌ナドハ歌フトキハ
 到彦王ノ意味ハワ解セサニナリ況ニヤ西洋ノ歌ハ
 更ニワ解ハセサニモ只何トナリ愉快ニ感スルモノナリ
 始ユリテナ時半ニ終リ一人ノ切代五冊(十四)高キモノ
 ナリ例ノ有業堂リサニ墨原君ノ松竹ニテ行キタルナリ
 利不トキニ喰リタル如キ切代ハボツクスト称シテ常事ノ
 有者ノ金持連中ニテ皆所有持テ互ニ岩野ノ競
 争ニシテ米田ノ高井慢ラシキ女カ一層高慢ラシキ
 凡エ決シテ感心ニタリモノニテアラズ

明治 年 月 日

田舎の一軒の店に己の蔵の土蔵を二軒一軒に
 至りては其の土蔵を二軒一軒に

日本銀行

三月十四日 日曜日

弥永、急身、三人、早朝、細有、郊外、散歩、去、樹々
 郊外、公園、行、植、園、見、供、将、田舎、木、子、立、食
 ラ、喫、午後、二、里、斗、リ、女、道、歩、キ、夕、刻、六、時、有、停
 リ、食、事、ヲ、満、シ、湯、入、リ、タ、ニ、睡、キ、モ、明、日、日、本、行、ノ、船、ノ
 出、ワ、ル、郵便、ノ、停、切、日、止、故、此、ノ、書、状、ヲ、泥、ノ、俟、
 以、夜、ニ、送、睡、付、テ、其、ノ、筆、ヲ、止、テ、多、分、今、日、口、本、ヲ、
 郵便、系、御、身、ノ、書、込、モ、有、リ、ト、衆、ニ、之、ヲ、銀、行、ニ、
 送、リ、
 毛、抄、母、上、是、迄、ニ、リ、今、日、一、日、中、何、事、モ、ナ、シ、
 此、ノ、手、紙、ヲ、自、分、ノ、兄、弟、ノ、生、活、モ、内、理、解、ス、ル、
 十、五、日、前、十、日、
 有、リ、
 年、々、

明治 年 月 日

(1)

三月十五日 日本銀行
昨日十四日ハ日曜日ニシテ郊外ニ散歩シタル為メ大ニ疲弊シテ
克リ睡リ朝ハ七時に起クルリ困難ナリシモ英治ノ先生来ニ為メ
ニ時向通リ起キ先リ中ノ一週ヲ終ルノ事ヲ満シ銀引ニ行ク
夕刻早ク帰ソテ九時に床ニ就キ家庭ノ事ヲ思出シナカク睡リ
供此ノ頃リ切リニ思出シ供係シ御身ニ心配樹ル振ノフハ云
今更ニ万般ハ心ニ御身ノ事ヲ如何ニ我身ノ事ヲ
心配シ又ハ供等ノ事ヲ思フトキハ千萬ノ苦痛ニモ少シモ
寂シカラズ心強キヲナリお壽美ノ所懐信セヨミナリ此等情ニ
今日ニ至ルニ至リ到彦志ルニ至リ純リスノ今ハ壽美子ノ元ヒ少
穴窪ニタル目カ我身ノ目ノ為ニ歎ハレ来リ候

三月十五日

日本銀行

明治 年 月 日

三月十日、日曜日、午後二時、日本銀行、大ホール、開演
 三月十日、日曜日、午後二時、日本銀行、大ホール、開演

日本銀行

三月十六日

今日、宣刻ニ銀、行リ今日、正午ニ日本会ノ委員会ノ
 日、*Lamyer's Club* ロイヤルクラブニ至リ、委員、日本人四人
 ト西洋人、着在ノ人耳七人斗リ来リ一時、斗法事ヲ恨
 議、然レ、勉強、然レ、英法未自由ナラン中、行キト
 寧、以不愉快ノ耳、有キ外、来リテ、因、詞自由
 ナラサレ、馬鹿ノ如ク、又、等、教、モ、セ、ラ、ス、中、々、外、因、淨
 在、々、容、多、ノ、業、ニ、ア、ラ、ス、寧、以、苦、痛、ノ、耳、ナ、リ、只、身、体、ヲ
 由、ル、ミ、シ、ウ、世、ノ、玉、ノ、フ、ヲ、研、究、セ、ト、ノ、念、志、ア、レ、ハ、コ、リ、帝、在、ル、ナ、シ
 人、向、カ、世、ノ、人、ち、当、ノ、等、教、ヲ、受、ケ、又、フ、此、レ、耳、ノ、不、愉、快、ノ、フ、
 云、々、云、々

明治 年 月 日

日本銀行
 三月十七日
 此頃、御身ノ消息耳候々、供先候、御身ノ手紙、
 接ヒサリニ為リ、此ノ上ニテ、失望ニテ、今夜、先般ノ手紙ヲ
 出シテ、讀ミテ、供
 此頃、経路上、南ノ書業、及、治学研究ノ為メ、有念ニ
 小説ヲ買ツテ、讀ミテ、外部ニ、或ニ出スルヲ、一日ニ早
 ク、同リ自由ニセシト、明ケ暮レ、甚辛ク、改テ、
 此頃、ホテ、ルノ集會、而、各事、後、多ク、二三ノ老人ノ、去年ヲ
 得テ、種々ノ、雑談、行テ、英、法ノ、能者、古ノ、能者、ニ、便、宜、ヲ、得
 共事ナリ
 今日カ、明日カ、日本ヲ、手紙ノ、来ル、日ヲ、能常ニ、待テ、其ノ、介ナリ
 明日、来ラズ、供

三月十七日

日本銀行

此頃、御身ノ消息耳候々、供先候、御身ノ手紙、
 接ヒサリニ為リ、此ノ上ニテ、失望ニテ、今夜、先般ノ手紙ヲ
 出シテ、讀ミテ、供

此頃、経路上、南ノ書業、及、治学研究ノ為メ、有念ニ
 小説ヲ買ツテ、讀ミテ、外部ニ、或ニ出スルヲ、一日ニ早
 ク、同リ自由ニセシト、明ケ暮レ、甚辛ク、改テ、

此頃、ホテ、ルノ集會、而、各事、後、多ク、二三ノ老人ノ、去年ヲ
 得テ、種々ノ、雑談、行テ、英、法ノ、能者、古ノ、能者、ニ、便、宜、ヲ、得
 共事ナリ

今日カ、明日カ、日本ヲ、手紙ノ、来ル、日ヲ、能常ニ、待テ、其ノ、介ナリ

明治 年 月 日

今日、来ラズ、供

明治二十年三月十八日
 日本銀行
 三月十八日

三月十八日

日本銀行

今朝、日本より郵便ノ来ニ曰ク故、英法ノ先生帰ルト云リ
 出樹ケ、金ニ洋銀屋ニ立寄リ其後、偽估立ヲ試シ
 十一時頃、銀り、行キシニ十斗リノ書状机ノ上ニアリ、飛立ツ如
 リニ先ツ忖袋ヲ見シ、御自分ノ手紙ノ如キモノナリ多ク、銀
 巾ノ忖袋ナリ大ニ失望シテ如何ナラカ、預金ニテハ、アラスヤト
 心配ノ念一時ニ盡シ、歎コソリ、惜モ人未ニテ平素ヲ忖袋ニテ
 忖袋ヲ切リタレニ中ニ佛自分手紙ナリ包子般ノ如キナリ
 一時ノ心配、引キ換フ我輩ノ満是情ノ下、吾等ニ沙路情
 人中ナリトモ一寸銀りニテ眠リ、手紙ハ二月二十七日迄
 藤田路

明治 年 月 日

明治 年 月 日

外國に於て決心ナリトテ 語リテ共ニ 候ニ 異ニシテアリ 斯レニ
 ニ 御身ノ由ルニ 我身ノ一生ニ 重大ノ關係アリテ 忘レ
 五フナ 御身自カニ 日本ノ 社会ニ 何事ヲ 非常ノ 仕事ヲ
 ナシ 得ルヲ 確信スルニ 我身ヲ 社会ニ 有益ニ 爲ルヲ
 ナシ 得ルニ 又 否ラサルニ 金リ 御身ニ 爲ルヲ 我身ハ
 アリ 我身ノ 爲メニ 社会ノ 爲メニ 由ルヲ 克クシテ 我
 身ヲ 助ルニ 義務アリ 又 斯ノ 如ク 天帝カ 我身ヲ 生シ
 モノナリト 信スルニ 故ニ 我身ニ 目前ノ 小事ニ 大事
 放棄スルニ 由ルヲ 一トシテ 我身ヲ 果シスニ 我身ニ 心死
 樹ケサル 候ニ 異ニシテ 我身カ 斯ノ 如ク シタルトテ
 斯ノ 義理ニ 三タリトテ 我身ハ 斯ノ 如ク シタルトテ 我身ハ 斯ノ 如ク シタルトテ

明治 年 月 日

カ達者ニ小供等ト果ニ遊ビ居ルコトヲハ此上ノ樂シミナリ
 家ナドノコト左程多キニシテ余ニ來エタリ帰來スル如キハ何等ノ
 緩ミ立ツフコトナラズ自知リ家ニ早リ来リソウナモノナリトテ御身ニ
 干渉スルモノニアラズ信テノモノモ御身ノ健康ノ為メニ犠牲ニ
 供シワルアルコトヲ我身ハ尤モ甚バモノナリ異々モ我々情ヲ
 誤解スル勿レ先便ニ言ハレ夜ニ帰來シタリ結婚式ハ
 此ツル如キコトナラズ東京ニゴタゴタスルコトハ我々等ノ危險
 ナリト注意シタリ果シテ此ノ事ハ此ノ事ナラズ且テ打臥
 シワルル如キコトナラズ我身ノ一毫一釐ハ金ヲ御身ノ
 健康ノ為メニ捨テ忘レテ此ノ世界ノ實際ニ金錢ニ
 御身ノ健康ノ為メニ全部ヲ放棄スルコトハ故テ辞セザル
 確信ヲ持テ玉ヘ

明治 年 月 日

確信ヲ持テ玉ヘ

8

日本銀行

包子部、結婚を仕事と見做し、
大い得和音に感に申供
附米、茶室ノ失策

9

日本銀行

来^ルリ 奴^ヌエ^ルハ 云^ク後^ノ 罌^コキ^スミ 我^ガ等^ノ 惡^ク 戲^ナナ^ル 船^{フネ} 近^ニ 来^ルリ

之^ノリ 何^{ナニ} 奴^ヌカ^リシ^フハ 中^{ナカ} 系^{ケイ}

日本銀行

7、佐世ノ為、佐原ハ至ラ宜者、風邪ヲ引キタル
ナリ又勸業ナリ又、此ノ外ナリ希宜通リニ一年ニ
經タサレ中ノ元々ノ佐原ヲ取返シ帰朝ノ夢、十年前
結婚當時ノ如リ此滿ニシ社会ニ活動スルヲ得ル
也ルヲ得ルト云、只御身ニ佐原當時ノ如ク佐原トナ
ンヲ切ニ望ミ

ヲ市子不付為事必要ニ存シ、右様ノ為係此ノハ
何時ニテモ盡成ス

右市子ノハ、知歳以右三田ノ税金ヲ拂ヒヤ、少ク又
年歸ヲ送リ来、是ノ算付ニ小冊子及玉若干遣、
即右付

小供等ノ手紙、右ハお見儀申、幸ハ我常ノ樂ニ有、
若シ雄ノ字ハ、右ハ若シ遣、何ハ免セ、
達者ニテアレシ、大確ノアレ、
ノ程果シキ、
出キタキ心知、

明治 年 月 日

人
今
年
の
ツ
リ
七
月
キ
ノ
郵
便
ノ
締
切
リ
日
ナ
リ
日
本
銀
行

五
十
五
銀
一
寸
尺
今
日
一
時
尺
斗
リ
早
リ
帰
リ
テ
直
ニ
締
身
ノ
五
十
五
尺
ニ
締
満
ニ
中
ニ
在
ノ
手
ナ
ド
九
リ
ナ
リ
タ
ン
支
別
レ
テ
以
来
又
少
シ
リ
他
ハ
ハ
様
ナ
リ
此
ノ
五
十
五
尺
今
日
テ
ノ
ヨ
リ
モ
太
モ
五
寸
一
キ
モ
ナ
ラ
ン
中
ニ
キ
バ
タ
モ
ノ
テ
今
日
ニ
何
カ
物
ヲ
言
ヒ
リ
ウ
ナ
リ
着
物
ノ
竹
ノ
模
様
中
ニ
判
死
ト
ナ
リ
克
リ
似
合
ヒ
申
候
中
世
辞
ニ
ア
ラ
ズ
往
来
ノ
モ
ノ
ヨ
リ
方
一
等
締
留
ニ
見
テ
申
候
中
毛
利
ノ
母
上
ヨ
リ
以
上
ニ
他
満
ニ
テ
可
成
恐
ラ
リ
ハ
五
十
五
尺
未
だ
右
ノ
上
出
来
ナ
ラ
ン
結
婚
ノ
尺
合
ハ
ノ
五
十
五
尺
ニ
持
ッ
テ
来
ノ
モ
ノ
ナ
リ
恐
ラ
リ
ハ
締
身
モ
其
ノ
積
リ
テ
五
十
五
尺
ニ
持
メ
テ
往
文
ヲ
サ
レ
タ
ル
ナ
ラ
ン
中
ニ
締
身
モ
其
ノ
金
ノ
金
ノ
五
十
五
尺
置
テ
又
其
物
ナ
リ
締
身
許
リ
許
レ
テ
入

明治 年 月 日

三月十九日

朝晩リ銀行ニ行キ夕刻一時斗リ早ク帰宿夜ハ九時頃床ニ就キ申供今夜ハ誰一人モ来訪者ハナリ毛利母上ノ字矣三子取ノ字矣ヲ見申供御身ノ字矣ハ何^様度トナリ見申供中々肥満セリ此レニテ充分ニ郊外ノ運動ヲセリ決テ健康ニヨロシカラサレ可シ病氣後耳ニアラス大段ヨリ帰京後ハ余程肥満シワアソレ要ナリ故ニ大体ニ於テ已ニ肥満ノ年配ニ達シタルモト考ヘラレ供満ノ為メニハ統テノ運動ニ應^ル後トナシモノナレリ充分治養ハ運動ヲナサレノ方必要ノト考^ル供

三月二十日

昨夜晩ク睡リコト今日ハ土曜ニテ英洛ノ教少来ラサレヨ
 床ヨ離レノ少シ業多シ然レサリレ為ソ一寸銀ヲニ行キ二時半迄
 宿ニ帰リ今ハ御身ヲノ手紙ヲ一月分ト二月分トニ分ケテ
 始メテ淡ミ申候何カ世々面白クシキトテ御身ノ手紙ホド衆
 シキモノハセテ只最後ノ手紙ノ風邪ノ御知ラセリ誠ニ衆ニナリヤ
 併シ次ノ便ハ必ス全快ノ御来リノ事ヲ待テ居リ
 今日ハ逸身カ英洛研究ノ為ニホーキフニト申候要ニ行キ、為リ
 是ガ会ノ為ニ友人ノ友友ニムト弥永ト本リテ五人ニテ合事ヲナシ
 夜十一時頃ヲテ淡話ヲナシ種々ノ淡話ノ末御身ノ下ニテ皆ナ
 自慢ニ兄セ申候此等ハ己ニ要利加流ニナリタリト笑ヒ玉フナ皆々

明治 年 月 日

3

肥満
此は
ちかり
堂
居り

日本銀行

日本銀行

三月二十一日

今日日曜日トテ弥永来リテ共、紐育ヨリ乗車シ一時程
有テ、タリタウニト申付、實ニ余リ田舎様御ニテ登るヲ
嘆シ其ニテ馬車ヲ雇フテ、實ニ方ルヲ見物、昨、昔ニ紐育ノ
金持ノ夏来ニ、實ニ鎌倉大塚ノ如ク、^{ナニ}交ナシ、ロワフエラ
グルトトテ世界ニ一二ノ金持ノ別荘有テ、繪葉書
ニ西洋家あり、ワシントン、アビニグトヤリ、文豪者ノ住ヒタリト
云フ、誠ニ右雅ノ家モアリ、ロワフエラノ家リ、何十^百万坪トアリテ、始ト
山ヲ一山所圍ニ、其上ニ家ヲ建築ス、余リ面白サヲ將
テ、屋ノ内ニ入リテ、建築地近ク行キ、番人ニ^上付メ、ラシ
タル、ルキハ余程、骨、秘、音、有テ、帰、出、ル、ハ、余、シ、失、ワ、ラ

明治 年 月 日

人、全收シテ产业ヲ迷ヒナドハ余程面白キ事ナリ
羊ノ集集ニテ古時ニ細音ニツキ合事ヲ早ク満スル
床ニ就キテ今夜ニスレハソノ（笑）（泣）ナリシテ毎日
曜日ニ郊外ニ散歩シ自休ヲヨリセント有心希望ナリ
注意ノアル如キ七理ノ實際ナドハ更ニ改サズ自ノ快、振
テリ細音ニ来リテリ讀書ト云ル、何ノ果ナシハ必
要モナリ細音ニ来リテ下ラヌ、日ヲ費スルモ自休ヲ此
ニルリテ予ノ務、此等ノ品少ク安心ナリ
本村付宿ノ配當リ少ナカリシニ金銀上ハ内記
毎半期ニ送載ス千円尺費ヒテ金ニ二月ノ延会後
千圓尺ケ送り是レ、召内記ニ送リ
三ノ年三月

明治 年 月 日

三月二十二日

昨日ノ午後三時 朝起ルニ困難セリ 今旦ハ平常ニ定キ日ニテ
 銀山ノ行キ止ルモ少シ定リテ心定ト云フ 即チ此理ヲ
 此所ヘカラスノ注意ヲ思出シテ三時次ニ帰宅シ日本銀行ヲ
 更ヘテ室ヲ暖カニシテ 勉強改メタルニ夕刻ニハ 何ホ業分ノ
 要シキヲモナシ 平常ニ定リ安心ト云フ 米玉ト本ノ日本銀行ニ日
 中ヨリ更ヘタルハ始メニ供
 為ル所キ仕事ハ此ニカニ 急ヲ要スルモノアリ且此理ヲ
 勉強スル 業モモナシ 且此理ヲ 七年前大坂ニ行
 キ以来 如斯ク 業ノ月日ヲ暮ラスナリ 殆ト 姫ノヤリニシカ 家族
 一同ト暮ラスナリ 此ノ 業ニカスニ 思出シ 供

明治 年 月 日

日本銀行

明治 年 月 日

維新ノ頃ニ来リテ一人ノ由テ日本ビーキノ人ニ有テ食
 事後其店ニ来テ其店ニ善道ノ其店ニアラスコロビヤ大
 金ノ最時金ヲ某金ノ為メノ金ノ由リノタビト夫人ノ其ノ幹
 事ナル由テ一人ノ由リノ人リモルカレノ親善ノ由テ金銀
 宝石ノ海山ノ付テ最金ノ由リノ横板ニテ共ニ四十五六
 ノ人ニテ其金ノ由リノ金ノ由リノ人ノ由リノ一層明ニテ
 時々返シテ其金ノ由リノ金ノ由リノ人ノ由リノ一層明ニテ
 湯夜ナテ其金ノ由リノ金ノ由リノ人ノ由リノ一層明ニテ
 策ナリノ其金ノ由リノ金ノ由リノ人ノ由リノ一層明ニテ

三日二十四日思フ

待ツテ其金ノ由リノ金ノ由リノ人ノ由リノ一層明ニテ

明治 年 月 日

三月二十四日

二十五日 乾溪山 午後、田舎

明治 年 月 日

桑、既、保井、手、氏、系、岩、佐、四、月、院、家、族、
繼、之、後、韓、由、夫、近、市、侯、ナ、セ、其、家、り、市、借、り
た、為、之、如、何、之、代、表、右、所、有、成、り、其、京、都、ノ、機、
手、氏、之、出、し、表、し、岩、佐、好、治、之、後、借、り、之、改、め、
持、主、ナ、京、都、大、學、井、上、密、博、士、一、寸、其、事、り、市、親、
、筆、ナ、之、按、ル、通、ニ、金、ナ、ト、
師、毛、ナ、ナ、時、辰、ナ、之、口、也、之、好、治、之、後、之、ナ、ナ、
床、之、張、キ、中、候、明、日、自、分、ノ、誕、生、日、ナ、リ、口、也、ナ、バ、ト、
切、り、し、家、御、ノ、男、女、ナ、セ、候、

三、日、ニ、ナ、リ、認、り

明治 年 月 日

日本銀行

三月二十五日

今朝ハ昨夜より、降雨非常ノ暴烈ニ成リ、今日ハ
 誕生日ナリ、又、取リテ行カントシ、昨日、床屋ニ行キ髪ヲ
 切リタルコト、今日ハ到彦外、去テ去来日ナレハ、今日ハ銀リ、行
 カス一日宿ミテ、勉強ス可シ、夕刻ハ英學ノ先生ヲ招キ
 テ、食事ヲナシ、誕生日ヲ祝ス可シ、明日ハ又、美ヲ取リ
 送リ、而テ、未タ少シモ、弟玉、風ニナラズ、供元ト、本阿弥
 ナリ、昨ハ、自身ノ目カラ、又、タラハ、少シモ、妻リ、タラハ、思フ、可キナ
 朝ハ、取リ、山野ノ到彦ノ日ナリ、小供ノ、若知、ル、何、ト、心、配、テ、
 夫、又、壽、美、子、ノ、知、ハ、袖、カ、短、カ、キ、カ、ト、モ、タ、リ、一、經、商、ミ、テ、ハ、皆、白、ノ
 雪、キ、袖、ノ、下、ニ、モ、ナ、リ、下、ニ、若キ、ハ、折、ミ、足、タ、リ、

三月二十五日

先便ニ申上供通り此ノ日ハ代常ノ暴風雨ナリ故、銀行ハ
一日休ミテ一日宿、引籠リテ讀書致供夕刻ヨリ誕生日ノ
ヲニテ英浩ノ先生ト正金次郎ノ一室ト来リテ食事ヲナシテ
日本ノ繪画ナド見テ果ニ中供元禄時代ノ繪ヲ今日ノ風情ト
云々ナリ、フヲ説クモモヤカ母及モサレノ事ナト云々
説クモ在ナリ、時頃ニテ談話シテ床ニ就キヤ
今日ハ暴風雨ノ為ニ其ノ事ナリ、今日ハ亦御
ニテハパパパパノ誕生日トナリ小供ホカ御共パパパパノフヲ囃サ致
そ、フト思出シ供先ツ四十一歳目ノ誕生日モ此事ニ過
カシ互ニ大慶ノフ、有る

明治 年 月 日

三月二十六日

晴天ミウ暖かし新報より行キテ總裁氏ノ書信ヲ読メテ
午後リ三十分斗リ散步シテ帰り此ノ書状ヲ読ム

昨ハ日本ノ新報ヲ讀ミテ果シテ彼日本ニ政事界ノ動
乱ヤリ經濟界ノ變動等モ少カラセ由當分此等ノ事外
部ヨリ觀察研究スルヲ減ミ以テ結構ナリ

此頃有ニニオ斗リノ愛ラシキ男ノ子カ有リ其父大人カ母ハナキ
常ニ抱キテ遊ビたり小供ト認ムニ時々抱キテハ梅子ノツ
ギ出シヤ修梅子モあ々成長ノリト有リ小供モ皆々健全
何ヨリノリト有リ皆々ノ健全ハ豫メアリテ此ノ上モナキ果シニ
有リ

明治 年 月 日

日本銀行

明治 年 月 日

三月二十八日 日曜日

日本銀行

朝リ天曇 日口シカラ 弥永 郵外一人来リ先ニ
 午後ハ千島島陸、島弁花来ニ云フ迄レハ 官事ニ参リ今日ハ
 至ル来ノ旨云ヲ再三、眠リカヘ何モ 締身ノ如満ニ云フハ 能常
 ノモノヲ此ノ氣ナハ 尊健金ナラト 有候只 可成運動ヲナサス云
 者カニマジト 有候 今夜リ少シク 喰ヒ 過キナリシヤ 夜半ニ 度ニ
 夢ノ為ノ目覚メノヤ、 遂ニ 自身ノ夢 追テ 見ヤリ 誠ニ 執シカリ
 只一人 宿屋ニ 夜半ニ 目ノ覚メタル 程 寂ニキモノハ 云々
 此頃ハ 生金ハ 能常ニ 冥雲ニ 未タ一皮モ 風モ 引パス 朝来ニ
 起ラズ 咽喉モ 痛ソ 云々 良少安ハレ

三月二十八日 既限ム

明治 年 月 日

日本銀行

三月二十九日

今般「英治」殿所ハ風邪ニテ来ラストマツテ十時ヲ宿ヲ
讀書ニシテ銀ノ行キ世我常ノ言キ日ヲ午後三時頃ニ銀ノ
出テ帰途ハコロンビヤ大橋ノ教壇ノテイウイハヤノ人ヲ尋ネ
ヤ去婦ノ間小供四人斗リアリテ粒ヲヨキ人ナリ小供カ印代
ヲ集メワルル由ニテ蓋雄ノ話ヲ聞ク要小供ノ間ニ印代ノ交換
ヲナサレシメテイトノ話有テ居立ニ至極ノト云是れハ内張レ
蓋キナリ小供ハ蓋雄ノ名前ト告地ヲ来キテ興ツ置ナラハ
近ハ下ニ来リ、ト有テ居差シ来リ出ハ日本ノ新ラニキモヤラ
左キモヤラ中集メテ蓋雄トハルニ云道ラセト云凡ハ
め代封入ノ通ラセ有テ此袋ハ手島ニ書カセ蓋雄トハルニ

明治 年 月 日

切手ヲ送ルヲト云哉。行キワリアツナトヲ書カセテ「日本ノ假名
ニヨロシ」西送り生カハ自カノ筆ヲ、字ニ親臨可也

デュウイトカハ人ハ小野君ノ紹介ニテ友人ニナリタル人ニテ大志ノ
教授ニテ一宗族ノ常ニ与ルキ人ナリ

夜ハ早リ日本彼ノ岩更ヘテ讀書ヲ読シテ去夜ハ常ニ

寂シク宗師ノ一思シ御身ノ一志ヲ取出テ幾度カ眠ソ

中何カ物ヲ言ヒテ少ナキト切リテ眠ソ入レトモ抑リ言ハル所

寂シキトキニ讀書スルトキハ御身ノ一志ハ常ニ机ノ上ニアソテ

中ニキドウタ風ヲシテ讀書ス我身ノ傍ニ居ルハ千家人ノ

友人カ聲ハ満チテ對談スルヲ眠カハ心丈夫ニ有リ

三月三十日 記

明治 年 月 日

三月三十日

今日ハ中々忙シキ日ナリ又煩サリ余リ感心セサリト曰ニ有之候
昼ハ高田吉金ノヤレグトシテ支分ルルハ其度日ナリ帰ニ海軍
中佐谷口トナリ人ヲ登合ル候キ其ノ古年ニ招カレ当地ノロヤ
クラグトナリ宴ハ多ク金ニモ十人ニテ二時頃迄ヲ越リ
夜ハ今西正金支分長ノモト招カレ其ノ午後三時頃ニ銀ヲ
出テ今日ハシツノノ金銀ノ受ケ日ナリ本月勿ク夫婦共ニ
和氣ニ行リ由ニ及ニ其ノ金銀ノ行キ自衛車ニテ多ク
シルリハツト多ク自衛車ニ乗リタルトキナドハ御身ト一絡トモ
有出シテ有テ其ノ金銀ノ行キ自衛車ニ乗リタルトキナドハ
其多ノ半帰人ノ縁向者ナリ皆馬車ニテ借リ馬車ハ

明治 年 月 日

明治三十四

日本銀行

誠に見要キコト有クナシ斗ノ向ニ榮ヲ飯テ帰京
セリ六時半ヲ今西ノ尾ニ至ル
田谷
田谷中佐リ正嘉年
ノ田地有クナシ夜十二時頃ニテ田舎ヤトラニテノ趣ニテ
帰リ申候

田谷トパー人リ三年品米大俵銀時貳貳ノ勤メタニ人ニテ
此處ノ有田ノ人田又中々、前付キタニシワカリシタニ人ノ振
及マキパー人ニ歌あり煙ヲ帰ルノノ由ニ今夜松乃
伯ノ末子ニテ申テ、田舎者トシ人ニ思合候

三月三十日夕刻 退

明治 年 月 日

日本銀行

明治 年 月 日

今日：日本銀行... 三月三十日

三月三十日

日本銀行

送目ノ手紙ニモ云ヒタル如クニ 我身ノ事業ノ足半ハ 御身ノ
内助ニアルヲ云フハ、
割スルニアルヤ 我身ヲ云フ世ニ云フ 辱ケ事ヲ為サシメ 愉快ニ世ヲ
送ラシケルモ 金ヲ 御身ニアルナリ 如斯キ世道人心ノ為メニ 関係凡
ヲ云フハ、
有セズ只 結ラニ 神経ヲ 悩ムコトヲ 余ヲ 余リ 感心不仕
世ニ 御身ナリシハ 一日モ 世ニ 生在るニ 希望ナキ者アリ 其者ハ
御身ノ 助ケニ 非常ノ 事業ヲ ナシ 遂ケ 一生ヲ 愉快ニ 暮
サレトシワ、
凡ソ 如斯キ 我身ニアルニ 思常ラハ 此後ノ 余我ノ 如キ
ヲ 如何ニシテ 御身ニ 云フハ 得ニヤ 自取自棄モ 甚ニ 云フナリ

明治 年 月 日

我身ハ御身ノ常ニ知ル如クシテ家族本意ナリ世ニ事業ヲ
 ナス為メニ家族ノ快楽ヲ犠牲ニスルモノニアラス御身ノ健康ニシテ
 許スナリハ何時ニモ米國ニ迎フ可シ我々ノ如ク一日ニ離レ可ク
 ラサシ思フナク夫婦ノ別居スルハ不自然ナリ故ニ御身サエ亦
 望ムナリハ何時ニモ米國ニテ希望スルヲ又我身ハ此ニ極リ
 秘密ニお明シシテ到港二年モ米國ニ滞在スルナリナリ我
 身ハ現在ノ職務ノ如ク何トモ為ル仕事モナリ外交官然
 トシテ人々ノ實際ニ如クナリ米我々事務ニ久シク従事ス
 ルハ本來ノ性質上出来サルナリ此我々ノ希望ニ米國ヲ研究
 スルニテ故ニ米國ノ研究ニテ古希ノ程度ニ出来ルハ米國ニ
 移ルカ（米國ニ移ルハ横リ到港ナリ可シ）米國ニ帰ルハ此ナリ

明治 年 月 日

10

日本銀行

故に御自ノ事ニ至リ早ク帰ルヲ見可キモ是リナハハナカニ
 可し故に留守トハ義事ヲお棄テ一往一復ヲ煩緩シテ
 帰ルノ上共ニ果テ去ヘヨリズヤ又美因ニ移ルフトナラバ
 往ルサヘ許スナリト云ヒ来ルノ用意モナシト云ヘ、夫レテ下ラヌヲ
 クヨクモ去ルヲ可カラズ、已ニ熱モ下リタニモナリテ終ニ油煙ヲ
 惱スル如キリ少シモ感心不付、常ニ世ノ夫ハ家族ノ棟梁ヲ
 犠牲ニシテ世ニ立タレト云ヒモノニアラス、玄橋ノ顔ヲ見キテ
 ナキモ千菊ノ異節ニテアリテモ其レ以上ノ保護シワリニテ去
 ハレハ

是日申上り馬
 何故、之業ヲ
 解同シテ、波
 江、東、桑、帰
 ル、一、方、ハ、我、常、ハ、病、業、ノ、ヲ、心、配、ニ、ワ、リ、見、ヤ、リ、思、フ、ハ、之、

明治 年 月 日

行

母、病死、物況、良、音、先、子、洋、澤、東、子、死、亡、父、亡、母、我

日

却少ノトキニ一家ノ悲運ニ傾キタルトキニ父ヲ助ケテ云ハセヨリハ
 寧ニ自カウ一家ノ商業ヲ經營シ一方ニ七人ノ兄弟ハ
 小供ヲ教之月ニナリウ一家ノ明ニ墮落セトスルヲ支持シテ
 長兄一家ヲ引渡シタル筆丈ノ母ナリシ今ニモ母ノ老カリシ
 トキ●ノ移ミ目ノ前ニ顯リシ事ニナリ母ハ目前ノ事ニ
 ルツアリ大ノ厭ミシテ小供ニ常ニ目前ノ貧窮ヲ忍テ收
 束ノ責ヲ負フ斗レ然レリ目前ノ悲運ハ寧ニ女等ノ幸
 セテト食時ナドノトキ又兄弟集ムリ燭ヲ囲テテ他人ノ幸
 運ヲ羨ミタルトキナト母ノ教訓ハ尚耳底ニ残ルナリ御身
 等モ此事ニ希望ハ所味ヲ有シ心集テ一轉ニテ大ニ世ヲ
 栄ケル必要ナリト云フルナリ

明治 年 月 日

ヲアツキミスト

クラブ

日本銀行

此様「Optimist Club」トテ一種ノ金集會アリ招カレテ行キ、常市ノ有

名ナリワルトルヲ、アストリヤ、トパー、~~ホ~~ホテルニテ開會、常市有後ノ

人立る名斗ノ金集會有之、此レハ要スルニ世ハ一種ノ悲觀

論者アリテ何カト云フハ常ニ世ヲ悲シモノアルモ愚ノ極ニシテ世ニ

アリテ常ニ笑ワテ世ヲ直ルカ事也ナリトテ曰志ノ金集會ニシテ

ニテ金集會十人斗リノ演説アリテ後常ニ面白キ演説耳

ニシテナリテ帰リ、世ハ如斯ク面白キ金集會アリ我御身ニ

大ニ及省セラルレバ、^伊城ノ城ヲ系、志ノ如キハ尤モ宜

為カラルレバ有候時候と云フニ思ヒ、^レ汝ヲ系カ

變ワテ与^レ向一カ^レシ

是ナリナリタリ、昔ハ、^レ學問ノ

明治 年 月 日

四月下夕

四月一日

日本銀行

今日「何等」約束モナリ又新日本多ク被テノ多味アリ、
 事故銀ハリ曉ク行キ四時頃、銀ハナクテ三十分斗
 リ散歩ヲナシテ七時頃、各事ヲナシテ供品御儀一渡
 モ儀ナリ正金支取去ノモ、行カサレ故、今更ハモ儀向シ
 日ナク打来リ一扇、白双二重ノ上着、及縫ノリシ
 ハニカケノフ
 入レヲ進口五時頃、又ハ我常ノ、在ニ在ナリ

日本銀行

四月二日

今日「森」
City Investment Club シチー・インベストメント・クラブ トリニ十三階
ノ階上ニテ當時席在リ、和田事務員ノ為メ、日中会（ミ）ノ
午餐會ヲ開キ、我々ノ有力者モ集リ、夜ハ正金五圓
ガリ和田氏ヲ芝居、招待スルニ共ニ、我々ノ芝居ヲ川上喜重
カ曰本語、演シ芝居、演シハレレト、候川上ノ芝居、久シ
リモ中は、面白カリレ、有テ川上ハ余程ハ芝居ヲ得解ル
ト有テ、我々ノ芝居

今日「森」ノ郵便日ニテ御書
ト忙ハシテ故長ニテ書止メテ

明治 年 月 日

日本銀行

141

六月廿四日

四月九日

今日中々、今日午後、常事ノ大花支局、行キテ、
面会、之、色々、談判、其、吹、少、詞、モ、都、合、見、出、テ、
極、一、成、リ、大、一、時、ヒ、ナ、リ、

午後、一、官、上、正、金、ノ、新、支、取、人、之、電、ハ、相、付、セ、リ、
因、事、甚、シ、試、大、敗、ケ、リ、又、一、事、ハ、何、ノ、有、名、ノ、蒙、古、之、
リ、解、何、シ、セ、リ、何、京、女、史、有、リ、曰、去、人、ハ、病、氣、ヲ、
玉、中、有、リ、結、婚、後、一、年、斗、リ、清、紐、之、子、也、預、ト、カ、リ、
何、病、氣、来、モ、全、快、ノ、由、ヲ、不、明、知、ス、
美、女、ト、リ、何、ナ、リ、ナ、リ、
曰、去、人、ハ、少、少、病、氣、有、リ、
曰、去、人、ハ、何、ナ、リ、
正、金、ノ、人、ハ、少、少、病、氣、有、リ、
何、ナ、リ、

明治 年 月 日

有候

明治 年 月 日

四月十一日

日曜日ニ弥永乃正金ノ柏木ヲ連テ紐育ヲ藻車ニ一時^間
 樹リ^ノモトクレヤ^トヤ^トノ^ト家ニ^ニ糸リ^ノ山ヲ^ニ夫^ノ五六月頃新緑
 ノ頃、紐育ノ人土ノ来ル^ニ家ニ^ニ無^ニ減^ノ、藻車タル^ノ切^ノ有^ニ山ノ
 頃上^ニモトクレヤ、ホテ^ニト^ノ非常ニ手係^ノ藻車タル^ノホテ^ニアリ^ノ昔^ニ甚^ニ食^ノ
 ヲ^ニ流^ニマ^ニシ^ノ馬車ヲ^ニ借^ニリ^ノテ^ニ出^ニ斗^ニリ^ノ山中ヲ^ニ廻^ニケ^ニ廻^ニリ^ノ候^ニ山間ノ美
 事ナル^ノ一種^ノ亜希利加風ノ家又葉^ニテ^ニ糲^ニキ^ニ家^ニ有^ニ云^ニ一^ノ馬車ヲ
 ア^ニワ^ニハ^ニリ^ノモ^ニト^ニク^ニレ^ニヤ^ノニ^ニ馬車ヲ^ニ下^ニリ^ノ一時^ノ出^ニ斗^ニリ^ノ運^ニ動^ニラ^ニセ^ニ夕^ノ刻^ノ、
 藻車ニ^ニ帰^ニリ^ノア^ニタ^ニ食^ニハ^ニ全^ニ稲^ニト^ニヤ^ニ日^ニ本^ノ料理^ニ屋^ニニ^ニ鳥^ニノ^ニス^ニキ^ノ
 焼^ニニ^ニ食^ニハ^ニタ^ニ陸^ニレ^ニ紐育ニ^ニ来^ニリ^ノ日^ニ本^ノ料理^ニ屋^ニニ^ニ年^ニ々^ニハ^ニエ^ニル^ノ妊^ニソ
 テ^ニ西^ニ中^ニノ^ニ各^ニ所^ニ紐育ニ^ニ西^ニ洋^ノ食^ニノ^ニ方^ニ違^ニハ^ニレ^ノ辨^ニリ^ノ也^ノ

明治 年 月 日

四月十五日

十
四
五
六

明治
年
月
日

四月十四日

ニ三日來ノ風邪ノ多味ニ全リ全快ナリ 昨レ今日ハ既ニ
非常ノ雨降リテ到處外出セナク又是レ土草ル可キ
用事モナキ為レ一日休ミタリ 東京ヤ大阪ナカニ居リタリ
トキト異ナリテ何トカハナラモナリ 如斯クハ欲々多味ナリ
昨レ多味、都區、川流モナリ 船陸ハムトナリ 時々一飲ナリ
ホレヤリムシキ 東京ノナリナリ出シ下候

今夜モ夜リナリニ床ニ就キ候 今夜ハ日本ハ春ノ盛ナリ
ミナ人々浮立ツトナリ 皆々如何ニ善シナリ 代小供ヲ連テ
毎日ナモナリ運動 社方ナ母上ニ包子取、珍饈、ハハ
ナリ、ナリ、市價ニナリ 花見、ナリ、市出、ナリ、ナリ

明治、年 月 日

四月十日

今日「風邪」又全快して、我常々暖口十日は彼も只用心、
為し一日録より休む十二時頃より外出して公園より一時半
程散歩あり夕刻より鼻青花車より一送る各事あり
改し夜十時頃迄は話して改し床に就ち候咽喉痛も
全し取し全快し有る候

是立ノ内稲カニノ 結構 誠ニ 固キ所ナリ 有テ一ノ是立ニ手
紙ハ出シ、金ナリト云フヤニテハ、云々 祝美、下ノ
種カナソナリ 巨粒 結構ナリ

美事ニ為取リ、為リ要曲出ニ出テ、一少シ全代刊ニ云ク

明治
年
月
日

阿 佛 尼 耶

四月十日

今日、新七時、起床風を残り、全快、既に九時、
美濃ノ所、匠も来り、此レ等、銀り、行リ、雲、有る、今日
「白ちり」ノ郵便日、此ノ名残、うさ、米玉、来リ、テ、
少し、花理、改サス、只、何、い、日、本、う、此、位、
日、外、ある、身、多、人、夜、に、喚、リ、帰、リ、テ、山、言、リ、頂、戴、
時、り、背、リ、向、ケ、レ、ワ、ント、サ、レ、ル、雲、ナ、シ、ト、米、酒、
謹、慎、に、有、る、少し、足、セ、度、ナ、多、米、玉、来、リ、決、
ワ、ト、又、ハ、ツ、レ、ト、セ、ウ、ル、様、ノ、決、
婿、君、ナ、リ、我、レ、世、ノ、中、ノ、仕、合、ハ、セ、モ、ト、常、
自、分、ナ、カ、ラ、感、心、
一、多、リ、乾、カ、ラ、ノ、口、ケ、ハ、
サ、コ、ナ、ラ、

明治 年 月 日

四月十六日

今日「風邪」を全快し、銀行へ出勤し、銀行で本二十六日
 新規ノ事務ヲ引越シ中候為、片付ケヤウ、彼方ニテ銀
 行ハ非常ニ不潔ニ、取夕刻ハ早目ニ帰リ中候、帰リテ
 此夜モ勉強シ、休シ、去月曜日ヨリ殆ト讀書ニ耽リ、為
 少シク厭、或ウチノ為、^{何等}何事ノ一モセス只ボシヤリトシテ
 夜ヲ深シ、十時迄キ、床ニ就キ中候、

今夕「五時」出キ、去来「五時」カラス、モ十收程カ便ヲ
 与、差シ、中候、少シハイカラ、或ウチヤ眼鏡、襟飾リ、
 洋服等、少目ヲ留メ、細着ノ一等、品知斗リ、有テ
 去来「五時」モ十五時（三十四）ニテ、あキモ、次ニ「一
 等」ノ「五時」

明治 年 月 日

此ノ「五時」ハ、^{何等}何事ノ一モセス、只ボシヤリトシテ

四月十七日

今日、早目、銀り、多し、土曜日は、お常、土曜清調、
午後、弥永ト共、ブルクリントテ、紐育ノ、河ノ向ヒノ方ニ
所ノ公園、散步、出掛け、保、お常、讀キ、美事、公園
ニ、池ノ大ナルアリ、中ニ、安多ノ、ホトリヤ、電氣、新、院、也、
今日此、吹、已、公園、青草、ニ、美事、ニ、米、未々、本ノ、芽、
青、キ、ト、多、ク、生、ル、至、ル、所、何、レ、青、ノ、初、メ、ト、云、フ、日、本、ト、紐、育、
一寸、一、ケ、月、以、上、ノ、善、シ、有、ク、夕、刻、リ、早、リ、帰、リ、此、庭、ニ、梅、が
ナ、ス、ト、云、フ、久、方、概、ニ、湯、ニ、入、リ、テ、床、ニ、就、キ、ヤ、
一、ト、云、フ、右、後、ノ、山、様、銀、り、ノ、共、ニ、善、シ、
他、リ、御、身、ノ、云、フ、可、也、
分、配、ト、云、フ

明治 年 月 日

四月十八日

日曜日ニテ 極上ノ天気ナリモ 吾ノ風邪ノ後用心ノ為メ 午日ハ
田舎ニ行カヌニ 極メテ乾リ一時 泥斗リ運動シテ午後ニ 幸
地ノ西洋人ヲ 訪向シタリニ 二軒共 留守ニテ 早ク申帰リタルニ
天多来ハヨシ 独リニテ 市中中ノ 都歩ムニ 余リ 面白カラス 又 既ノ
運動ニ 疲シタル 為メ 都歩ムニ 厭ナリ 静ニ 都歩ニ 決
意シ 始メシニ 寂シキヲ 厭リナリ 夜モ 同シニ 寂シキ 大ニ 困リテ 候
手付テ 盡シテ 厭ナリ 何モ 厭ナリ 迄 亦 午リナリ 早ク 床ニ 入リテ
睡リテ 候 夜ニ 眠常シキヲ 睡リ 宜ク 夢見キ 事
其 時 東京モ 最上 等ノ 時候ニ 皆 乃 上 集 様 嫌ノ ト
云フ

明治 年 月 日

此レニテ サヨナラ
四月十八日 東京日ニ 郵便日ナリ

四月十九日

今日ハ月曜日ニシテ昨日より係り候今日ハ日本より郵便物、
 日十トモ来リ奉ラる共望シタル午後二時頃、而身ノ手紙ニ接シタル
 等様嫌ノ様ニ接接ニ候弥ハ大碑ヲ引上ケラレ由最
 東京モ暖カキト有リ帰系モ与メ一カニ帰シ帰系シテモ
 運動ヲ怠ラヌ様ニ為ナリ其ノ目ハ可成速ニ手紙ヲ
 改メ必ス全快ノト有リ其ノ目ニ与メ一カニ元々豫定
 可成事、有リ候日中婦人カ西洋人ノ中、入リテ見スホウ
 シキトヤ、其ノ常ニ来リ障ハリハ凡ハ大衆火災、下ラヌ
 トラ申上者隔メサル次第ニ而中々西洋人ハ何千番何百番
 弗ノ金満家ノ中、其ノ日中ハ僅カ月、五石弗ノ給料

明治 年 月 日

明治
年
月
日

丈夫ノ低キ、是ノ短キ、歩キ振リノ尺長キ、色ノ黄色ナキ
 ハ西洋人ニ比シテ、細長ノ形、細リと耳キモ自カハ、細リナ
 キ眞、信ス、愛シ云ハ、日本婦人程世界ニ尊敬スルキ
 愛ス可キモノナキ信ス、殊ニ日本ノ夫婦ノ關係ノ如キ
 中危ナキ人リイガ知ラズ男ハ今日ノ教育ヲ受ケ婦人モ
 高等メ学校ニ入リ教育ヲ受ケ、夫夫婦婦程世界ニ
 理想的ノ夫婦ハナキ可シ信ス、若シ日本人ハ異ナラ夫モ
 婦人ヲ愛シ且テ敬ス、進マテ婦人ニ古来、自己ノ
 主權ニ進マテ、西洋婦人ノ如ク我儘ナラズ、
 我々ノ如キ夫婦ハ日本今日ノ理想的ノモノニシテ世界ニ如ク
 純潔ナル且ツ互ニ愛シ合ハル夫婦ハナキ可シ信ス、

(ノロケト誤解シ玉フナキ)
 因ニ未ダノ感シテ

明治 年 月 日

四月二十日

今日、銀り、曇り、朝、雨、天、此、日、の、夜、常、に、暑、かりし、
比、し、う、寧、に、や、い、り、氣、候、ノ、變、り、雨、に、依、り、夕、刻、ノ、半、リ
歸、り、多、日、下、り、来、り、我、り、竹、竹、ノ、陰、ニ、在、り、常、々、淡、々、と、
ケ、ノ、半、玉、ノ、歴、史、ヲ、淡、々、と、余、リ、ニ、面、白、リ、夜、ノ、十、一、時、頃、ニ、
強、シ、テ、床、ニ、就、キ、候、

床、ニ、就、キ、テ、早、ハ、此、日、ノ、結、身、ノ、手、紙、ヤ、其、ノ、返、事、ヤ、ウ、禮、々、ノ、フ、
テ、其、ノ、内、ニ、睡、リ、申、候、

明治 年 月 日

四月二十一日

日本銀行

今日、銀行之行き途に、今西支所長ノ宅ニヨリ一寸用事ヲ済スル
銀行ニ行キタルニ、紳ノ身ノ手紙ニ接シ候大確ヨリ帰リタルコトヤラ
概ニカ豫車中ニ細音ノハッパノ音ニ行リト云ヒヨシ面白キヲニ
有テ東京ノ家モ更ニ風ヤ地震ニテ破壊ノ由シ其内ニ在者
ノ家モ尺半リノ、在シ申候小野君ニ會合スル所ヤ既ノ由
所安山ト云小野君ノ家後ノ花ビニ門キ換テ御身ノ
寂ニキノ中持系ノ一書アル事ニテ何時ニモ出外ニ出エ
ノ様ナリ此ノ前ノ手紙ノ折ニ人ノ心配スル所ニ
建、アル大切ニ其方々ニ付後、我々ノ衆ニハ由、次第ニ
半何ニテ得エノ事要ケ合ヒナリ

明治 年 月 日

四月二十二日

今日も朝銀りニ行キタルニ日本より新聞ヤラ友人より手紙も来
リ候山田佐一チブスミ太夫病院ニ入院中トノノ京都より友
祝ハ来リタリ事トリ有リ也又足床移り内世活キ内候
チブスミノ事中人より足床トノノ禁物ニ内書ハシ何カ足床ノ
品物ヲモ内書ハシキ事

ミタノ一とミタノ如何ニ少ナキバリミタノ為ソ故ニ面白キ事
多クハハイカラニ成リ、移レテ其ハガヤ者内ノ事ハ年少ニリ
男モミタノシリ恋ハルル移レテミタノ事ノ類

小供ノ一とミタノ可成軍ヲ内書タリト内書内身ノ事モ又内書
内書タリト移レタリ

明治 年 月 日

四月二十三日

此度銀りの三軒ノ隣ニ引越シテ貸付テ常ニ片付テ忙ハ
 シテ所座ノ分御自分カ忙ハシキトカ一豫メアラズ正金ノ連中カ忙
 シキトテ所座ノ今日ノ銀りニ行カ自分カ室ヲ知能タルノ要
 領事カ金倉ヲ西洋人ト一緒ニ食スル由ヲ知付テ受テ取
 金次アリ知悉ケル中中面白キ人ニ殊ノ外愉快ノ
 感ニホタ

夜リ帰リテ日本ヲ参リテ所座ヲ讀ミ一夜衆ニ中候日本
 ノリ所座ヲ讀ミ大抵アリ知付テ所座日本候ノ旨欠
 ヘテ所座ヲ讀ミ一ノ中々ニ衆ニシテ所座
 此夜リ又々所座ノ手紙ヲ保返シテ讀ミ中候

明治 年 月 日

四月二十四日

今日モ 銀行ニ行キタルモ 明日ノ引越ニテ 平常ノ混雜アリ、
 7ニテ 到任執務スル際ニ 系ラズ午後ノ二時頃、帰リテ 日本郵
 船會社ノ三原氏ヲ 訪問シタルニ 不在ニテ 引越シタリ 夜ハ 独リニテ
 日本ノ事情ヲ 演ミ居リタルニ 跡ヲ 求メテ 曉ク迄テ 宿ニテ 帰リタリ
 出頃ハ 我常ノ 咄ニナリタリ 咄ノ 下ニ 夫ケ、勉強ノ 出来タリ
 昨日 日本ノ 7ヲ 考エタルニ 多ク 成リ P. 候
 為ニ 雄ノ 意ヲ 移シタリ 何ニ 成リ、 訖 差シ 出来タル止
 3 得タル 7ナリ 今ノ 傳ニ 改メ 7ニ 移スル

明治 年 月 日

四月二十五日

今日ハ朝六時半ニ起キテ乗車シモントリレヤニ乗リ去今日ハ
 教壇ノ教壇カ自カノ婦ノ嫁ニ成リ先ハ乗内ニ自カノ地
 主カ約束ノ日ナリモントリレヤハ細音ヲ四十分ナリノ田舎ニ
 過ルニ所ナリナリノ家ナリ口實ノ停車場ニテ教壇ノ去
 ナリテ教壇トテ大ニ生性ニテニセハノ義者ナリ）婦ノ嫁入先ニ
 参リ主人ニトナソニテ保険会社ニテ像ノ人ニテ面白キ
 人ニテ四十四位ノ人ナリ妻表ハ三十万位ノ人ナリ昔カハ三
 人ニテ近傍ヲ散歩ニ正午ニ晝食ノ地ニテ我常ノ
 手カナ地ニテ終音ニ来リテ始メテ中等社会ノ家庭ニ
 合カテテテ我常ニ輪塊ニ威シテ供家ニ大ナラサ
 ン

明治 年 月 日

周圍より可なり庭をテ一家族ノモノカ團樂ニテ話ヲシナカラ
 静ニ食ヲテテ実組育ナハハ見ハテ有テ午後
 ハ静メト人ニテ云付ナリ静歩改シ此後ハ静メノ自毛ニ系
 リ母トカ人ヤウササナ妹ニ面會テ再ヒトムリニ毛ニ来リ
 此後ハ二階ノ部屋ニ系リテ静メテ話ヲナシハ此後ハ
 夕食モ此地ニテ組育ニナリテ帰リテ休今日ハ
 非常ノ愉快ニ感じテ休曰来ニ帰リテナリハ是れ田舎ノ一
 軒アリ造リテ土曜日曜ノ日ニテ人々此地ニテ有
 今日ノ静メノナリ人々非常ノ愉快ニ感じテ有
 組育市街ノ大層ニ静メノ此地ニテ有ハ愉快
 ニ有テ

明治 年 月 日

四月二十六日

今日ハ銀行ハ新規ノ切手ヲ引越シタルニ午後ハ多少人モ
見物来ルニ可キヲシテシヤレピン等ノ用意ニ改アリ三時
より西洋人徒々トシテ来リ各種ノ人、会ヒ、休シヤレピンヲ
飲ミ過キテ心持ハヨロコバラス午後四時より六時迄ハ多野飲
事ト共ニ散歩シテ日中俣栗部ニ参リ今日ハ俣栗部ノ
役名ノ改定日ニ自カニ幹事、選挙改定、細目ヲ
事リテ此ニナリテ千像ルハ面白カラシキ事、以テ云シモ一ツノ義
理ハ有リ、義儀有リ、夜ハ選挙ニ参リ晩リナリテ帰リテハ
登ノシヤレピン、常テラシキ心持面白カラス親ク、以テ夜ハ克
リ

明治 年 月 日

四月二十七日

日本より友人二人来り一人は南に元一内閣書記長より一人は
 榊原トテ榊原トテ事務長より今日日本信託部より登壇
 供し其後水野領事モ来り又其太田土身より南に同年
 卒業生より愉快に談話あり午後銀り、等し
 今夜は宅に帰リテ久方振、早し和紙、省換へテ各機、
 主知リ勉強あり米玉、来リテ前事より振付、研究
 あり言ふ一、此ノ玉ノ歴史ヲ讀ミ今夜讀終リ中供
 中々、面白キヲ、中々

明治 年 月 日

四月二十八日

銀行に系り、漸りて新事務ありて片付申候事務
室ハ大改支那ノ支店ありて倍モアリテ我常ニ結所願ハ内情、
昔ハ只自外ト称永及迄身ノ三人耳ノ部屋ハ内情ノ事
ニ少々演進ナル位ハ内情

今夜ハ前ノ農家事務士屋ノ為メ、晩餐会アリ、多ク口外人
モ多シ、多シ中々賑カク会ニテ演説モ四人有之候
農家事務士屋ハ Shauwa 日本人ニテ猶太人ナリ猶太人ニテ
米玉ノ言及、上リ女ハ始メテノ由ニテ会合ノ人ハ多シ、猶
太人ナリ、一奇観ナリシナリ

明治 年 月 日

四月二十九日

今日ノ昼ハ華聖頓日也大使館ノ垣角君来リ 柳井
君ハ晝食ヲ内地吉濱由テ日本俱樂部ニ参リ夜
ニ帰リテ今日到府セシ御身ノ平好ヲ淡ニ其子咲ニテ
因リ其由謝美ニモ服ニ向カウズト一ノ新聞紙取ル
留守ニ可也而新ヤリマツサージ山本君ノモニテケシノシナモ
ナリ効能アレバ仕合ナリ時候モヨリナリ 皆此由ニ可也成爲来
ナサレハ必要モノナク事ニ有候 玉元ノ不幸ハ実ニ氣ノ毒
ナリ三人ノ小供ヲ残サレテ寡夫トナリ先ニ参見ノ境遇ニ
スルニ余リアルナリ時々衣著ナク小供ニ而送リ来リ
小供ノ衣著ハ幸便ノ節而送リ可也候

明治 年 月 日

四月三十日

大隈、任友、東ノ理事ノ中田錦吉君昨日日本より来リタリ故
 以テ君ヲ紹介ス為メ、今夕日本俱樂部ニテ晚餐ヲ開キタリ
 重モ十九 田育ノ人ハ大凡ソ皆ニ集リテ中ニ西地者有之候
 田育ノ日本料理ニ高價ニ候今夕ノ料理ハ酒モ入レテ多クハ
 七弗以上(十四圓)ナリ只食ツテ飯ニテ七弗トハ随分高價ノ
 モノト有之、此夜ハ矢ニ美味シク食ヒテ中ニ好味ユリシ
 所ニ食シタル後ノ心持ハ西洋料理ノ方遙クニ勝ルコト有之
 日本料理ナクハ酒ハ西洋酒ニシヤレハレヲモ用ヒテ候
 毛利田上、包子飯ニ久有テ不沙由ナリ、今夕何處
 家ニテ未タ一夜モ未タリヤス寧ニモ出サズ方々何カニシ

明治 年 月 日 午後 七時 何ノノノ

五月一日

今日、土曜日、午後二時頃、二時足計運動、して帰り、演
 講、改、レ、後、午後八時、日本人、共、協会、ト、下、候、会、合、有、ニ、由、
 ニ、此、ノ、年、会、ト、演、説、ヲ、行、ス、ル、ヲ、カルネギー、ホール、ト、中、に、演、
 々、演、説、ス、ル、会、切、ヲ、聴、衆、モ、日、本、人、西、洋、人、併、ハ、セ、テ、七、十、人、有、
 ヲ、此、何、カ、一、体、ノ、精、力、ヲ、集、メ、入、ラ、ス、演、説、ヲ、ス、ス、又、多、来、タ、シ、テ、演、説、
 ヲ、始、メ、ル、前、ヲ、正、ノ、厭、ハ、有、シ、演、説、ヲ、ナ、シ、テ、モ、多、来、タ、リ、ガ、セ、ス、一、出、
 所、ト、近、テ、下、午、十、演、説、ハ、ナ、カ、リ、シ、ト、思、フ、程、面、白、カ、ラ、ザ、ン、演、説、
 ヲ、改、シ、テ、下、候、演、説、ヲ、行、リ、テ、モ、不、悔、快、ヲ、早、に、帰、リ、申、候、
 演、説、ハ、法、表、ノ、如、キ、モ、ハ、未、玉、ニ、永、住、ノ、精、決、ナ、ル、可、ク、ラ、ス、如、シ、テ、
 永、住、セ、ト、モ、ハ、多、少、自、知、ノ、性、質、ヲ、研、究、シ、テ、必、ズ、ハ、匡、正、セ、ザ、ン、可、ク、ラ、ス、

明治 年 月 日 ト、テ、口、本、人、ノ、欠、点、ノ、二、三、ヲ、挙、ゲ、テ、下、候、

九月二日

日曜日より天多雨、奴キモ、今由夕又、演説、ウセザン、可ク、人、以、夕、
 演説、懲リ、カ、リ、ユ、ク、厭、ナレ、モ、約束、シ、カ、モ、リ、防、方、モ、
 午、前、カ、宿、シ、演、説、ヲ、ナシ、一、時、次、ヲ、一、時、足、斗、リ、軍、動、ヲ、ナシ、
 郵、船、全、世、三、原、モ、演、説、ヲ、リ、ル、故、口、キ、ヲ、防、ヒ、夕、刻、ユ、テ、
 對、談、シ、タ、合、ル、ヲ、共、ニ、シ、演、説、即、ニ、終、ル、今、夕、ハ、同、キ、ノ、経、路、
 上、行、ク、改、シ、全、リ、解、衆、ナ、レ、ニ、一、多、米、町、成、ニ、造、ル、一、度、我、常、
 ノ、上、出、来、ニ、大、賞、有、リ、惜、シ、カ、候、昨、夜、ハ、果、テ、今、夕、ハ、愉快、
 安、睡、上、来、ル、候、細、音、ヲ、如、好、下、ラ、ス、ト、其、心、モ、一、患、ノ、
 五、リ、ナ、リ、此、後、ハ、お、金、ハ、約束、ナ、レ、改、メ、又、有、ク、向、島、
 ハ、ミ、リ、モ、三、原、モ、ハ、お、金、ハ、帰、玉、ハ、何、カ、ハ、信、ニ、上、臺、ヲ、准、安、

明治 年 月 日

依、新、可、也、

